

# 大学生書字による平仮名の特徴

## —概形を中心に—

林 朝子

### Actual Situation of 'Hiragana' written by University Students — Focusing on Rough Shape —

Asako HAYASHI\*

## 要 旨

小学校における平仮名指導では概形を用いた指導が実施されている。今回は小学校教員を目指す学生47名を対象に、アンケート調査と文字データ収集を行い、学生の平仮名概形の把握の実態と実際の書字による平仮名字形と概形との関係について調査を行った。分析の結果、基本的に基準とされる概形を認識しながらも、概形の捉え方に揺れが見られ、書字にも影響があることが明らかになった。

キーワード：平仮名 概形 小学校国語科書写

### 1. はじめに

小学校第1学年の入門期の平仮名指導を行う際に、有効的な方法の一つとして概形を用いる方法が挙げられる。小学校で学ぶ平仮名は「楷書に調和する平仮名」<sup>1)</sup>であるため、流動的な運筆で書かれる伝統的・古典的な仮名ではなく、ある程度の概形に当てはめることが可能である。そのため、平仮名の概形を用いる指導方法は、児童の文字の字形把握の一助として位置づけられている。平仮名の概形として具体的に使用される図形は「□、▭、◇、△、▽、○」が基本的である。それぞれの概形に当てはまる平仮名は、順に「つ・へ」「り・ら」「は・ね」「ふ・ん」「や・す」「の・ゆ」などが挙げられる<sup>2)</sup>。

筆者が担当している「小学校専門国語」では、小学校教員を目指す学生を対象に、小学校書写の内容を扱っており、小学校書写の学習内容・指導内容の理解と同時に、書字に関する技能も伸ばすことを目指している。平仮名指導についても取り上げているが、その際に多くの学生の「平仮名の概形」という捉え方が非常に漠然としていると感じた。このことから、本稿では、小学校教員を目指す学生が平仮名概形をどのように把握しているのか、また、書字された平仮名との関係について明らかにすることを目的としている。

### 2. 平仮名の概形についての取扱い

ここでは、小学校学習指導要領国語科と国語科書写の教科書を取り上げ、平仮名の概形についてどのように取り上げられているのかを確認しておく。なお、学習指導要領については平成20年版と平成29年版（以下では、それぞれH20指導要領、H29指導要領と記す）、教科書についてはH20指導要領に基づいて作成されたものを対象としている。

#### 2-1. 小学校学習指導要領国語科での取扱い

H20指導要領において書写は〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で扱われており、第1学年及び第2学年の書写に関する事項において「ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しく、文字の形に注意しながら書くこと。」と記されている（下線は筆者による。以下同様）。また、H20指導要領の解説において「「文字の形に注意しながら、丁寧に書く」の「文字の形」とは、主として文字の概形のことであり、概形とは、「○、□、◇、△」などの形に類型化される文字のおおよその形のことである。」と、具体的な図形が挙げられている。

H29指導要領では国語科の内容構成が変更され、書写は〔知識及び技能〕の「(3) 我が国の言語文化に関する事項」に位置づけられることになった。第1学年及び第2学年の書写に関する事項において「(イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁

\* 三重大学教育学部

寧に書くこと。」と記されている。H29 指導要領解説では、「文字の形とは、点画の積み重ねによって形成される文字のおおよその形（概形）のことである。極端にゆがんだ形を生まないように、児童には、文字のおおよその形を把握した上で書くように指導することが求められる。」という内容となっている。

双方の指導要領において、「文字の形」という用語は使用されているが、解説での記述においては変化が見られる。H20 指導要領解説では、○、□など具体的な図形が概形の例として挙げられているが、H29 指導要領解説では挙げられていない。一方、H20 指導要領解説では単に概形が何を指すのかを示すに留まっているが、H29 指導要領解説では、「極端にゆがんだ形を生まないように」「文字のおおよその形を把握した上で書くよう」といった、指導の面で概形を取り上げる重要性に触れている。指導要領解説におけるこのような変化は、学校現場において平仮名の概形についての理解はある程度定着した段階に来ており、次の段階として実際の指導時に概形を取り入れた指導を徹底していく必要があることを含意していると考えられる。

## 2-2. 小学校国語科書写教科書での取扱い

小学校教科書は6社の教科書会社から発行されており、第1学年用教科書において、平仮名概形の取扱いは以下となっている（表1）。

表1 教科書における概形の取扱い

教科書（略）	概形についての記述等
【学校図書（学図）】 みんなとまなぶ しょうがっこう しょしゃーねん	p.18-19 五十音図表の下 じのぜんたいのかたちいきをつけて ましよう しかく□→ は よこなが□→ い たてなが□→ も まる○→ の さんかく△▽→ ふ・す
【教育出版（教育）】 しょうがくしょしゃー	p.18 じのかたち じのかたちいきをつけてかこう じのまわりのかたちをえんぴつで なぞってみよう じのかたち しかく □ □ □ さんかく △ ▽、まる ○ □：か、□：う・り、 □：い、つ、 △：み・ん、▽：す、○：の・め p.20-21 五十音図 概形なし
【三省堂（三省）】	概形の項目なし

しょうがくせい のしょしゃー一年	p.20-21 五十音図 概形なし
【東京書籍（東書）】 新編あたらしい しょしゃー	p.10 いろいろなかたちがあるんだ ね だいたいましかく□→ た・に たてなが□→ う・し よこなが□→ へ・い p.18 五十音図 概形なし
【日本文教出版（日文）】 しょうがくしょ しゃーねん	p.16 かたち ひらがなのかたちにきをつけてか こう □→ い・へ □→ も・う □→ ほ・ね △→ ふ・み
【光村図書（光村）】 しょしゃーねん	p.19 じのかたち どんなかたちのじがあるかな ましかく□→ ひ・ね よこなが□→ つ たてなが□→ じ・こ p.7-8 五十音図 概形なし

H20指導要領に対応した教科書であるため、概形を具体的な図形で取上げている教科書は5社であった。取上げた図形については、□・□・□は共通しており、△・▽・○の取上げについては教科書間で異なっていた。五十音図内において、「あ」から「ん」までの文字に概形を重ねて提示する教科書はなかった。これは、小学校書写の平仮名指導において、拠り所となる平仮名字形が存在していないことも影響していると考えられる<sup>3)</sup>。例えば、小林（2012）で昭和22年版指導要領から平成17年版指導要領に対応した書写教科書を取り上げ、「平仮名での「はね」に関する学習単元の設定自体が教科書によって流動的である<sup>4)</sup>としており、それ以降の指導要領に対応した教科書においても「平仮名での「はね」に関する学習の設定は、平仮名における「はね」以外の点画「止め」「払い」「曲がり」「折れ」「結び」の場合に比べて曖昧<sup>5)</sup>と指摘しているように、小学校で指導される平仮名の点画の一つである「はね」についても教科書間で十分には統一されていない。また、浦野他（2001）でも、中学校教科書での平仮名を取り上げ、「指導事項の取り上げ方は、（中略）ばらつき<sup>6)</sup>があるとしている。

以上のように、教科書での平仮名の扱いや取上げ方については統一されておらず、概形についても説明や例示される図形が異なるなど、先行研究での点画の扱い等と同様の結果となった。しかし、概形について触れている教科書は6社中5社ことから、指導する側にも

概形に対する十分な認識が必要とされ、実際の平仮名指導時には概形を踏まえながらの指導力が要求されていると言えるであろう。

### 3. 調査概要

小学校教員を目指す学生の平仮名概形の把握と書字との関係について明らかにするために、平仮名46字の概形に関するアンケート調査の実施と平仮名46字の書字データの収集を行った。

調査実施日：2019年6月17日

調査対象者：小学校専門国語履修者47名

調査内容：

#### 1) アンケート調査

平仮名46字に対して、最も近いと思う概形を選択し、を付けることとした。実際に平仮名を書いた上で概形を選択するのではなく、頭の中で平仮名をイメージし、概形を選択させた。そうすることで、各学生が認識している平仮名の概形がより明確になると判断したからである。使用した概形は、横長四角（横長）、縦長四角（縦長）、真四角（四角）、三角 $\triangle$ 、丸 $\bigcirc$ 、逆三角（逆三） $\nabla$ の6種類である。

本調査で基準とした平仮名の概形は、浦野他2001<sup>7)</sup>、小学校教科書を基に設定し、これらに挙げられていない平仮名概形については、平仮名点画の運筆を想定した場合に、始筆送筆終筆が最も多く接すると考えられる概形を筆者が選択した。

#### 2) 書字データ収集

幅2cmの縦罫線のあるA4用紙（横）を使用し、「あ〜ん」を五十音順で書字するよう指示をした。使用筆記具は鉛筆かシャープペンシルである。書字する際には、「普段の字でよい」と伝えた。

調査の実施は書写の内容を扱う初回の授業であり、書写や平仮名に関する講義を行う前の調査であるため、調査対象者である学生は平仮名概形については調査時点における学生の知識や認識・イメージで選択し、また書字も行っていると考えられる。

### 4. 調査結果と分析

平仮名46字に対しての回答は、【さ】【み】【る】以外は基準的な概形を選択していた（資料参照）。基準的な概形を選択する回答が最も多い場合でも、他の概形を選択する割合と大きな差がない平仮名7字【あ、い、お、こ、す、ち、ぬ】も見られた。ここでは、基準的な概形選択がされていなかった【さ】【み】【る】の3

字と基準概形以外の選択率が30%を越えた7字【あ、い、お、こ、す、ち、ぬ】、計10字に対して、実際の書字による字形例も合わせて概観していくこととする。なお、書字例のNo.はデータ番号である。

#### 4-1. 【さ】【み】【る】

##### 【さ】

基準概形：逆三 $\nabla$ 8.5%

回答概形：四角 $\square$ 46.8%、縦長 $\square$ 29.8%

基準となる概形は逆三であるが、この概形を選択したものは8.5%であった。最も多かったのが四角で約半数の学生が選択をしていた。次いで、縦長が29.8%であった。書字された字を見てみると、四角、縦長と回答した学生の平仮名は以下ようになった。

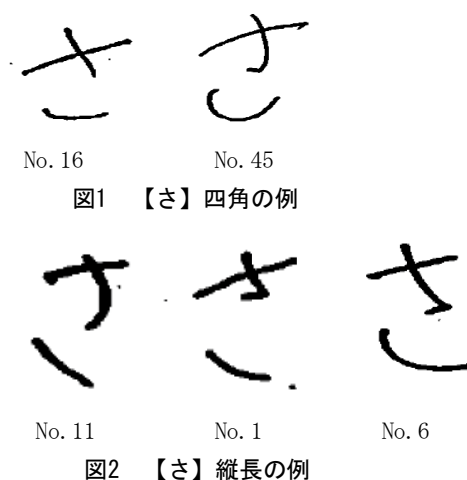


図1 【さ】四角の例

図2 【さ】縦長の例

これらの書字例より、書字された平仮名の概形は認識している概形と近い形を取ることがうかがえる。特に、【さ】が四角、縦長と認識されている背景には、【さ】の一面目と三画目が同じ幅ほどに広がっており、また、三画目が上の部分を受けるお皿のように書き表す傾向も見られる。本来の【さ】の三画目のように斜めの線で表現できているものもあるが、長さや角度が逆三の概形に収まらないと考えられる。

##### 【み】

基準概形：三角 $\triangle$ 10.6%

回答概形：四角 $\square$ 74.5%

基準となる概形は三角であるが、選択した学生は約1割程度であり、多くの学生が四角を選択した。【み】の字母は「美」という漢字であることから、【み】の概形も三角となるのが自然である。しかし、実際には【み】の概形認識、実際の書字を見ても、図4のように概形を四角とする学生が非常に多い。最初の短い横線を中心位置に書き始め、字形を整えていくことに困難を感じやすい平仮名であると言える。

No.24

図3 【み】三角の例

No.4

No.5

No.38

図4 【み】四角の例

【る】

基準概形：縦長□12.8%、  
回答概形：丸○44.7%

基準となる概形は縦長であるが、選択した学生は1割程度であった。【る】については、後半部分が丸味を帯びた線であるため、丸の概形のイメージにつながったと考えられる。

しかし、実際に書字された【る】を観察すると、概形としては縦長であるものが多い。認識している概形と実際の書字での概形に差が出ている例と言えるであろう。

No.25

No.13

No.32

図5 【る】縦長の例

No.8

No.35

図6 【る】丸の例

#### 4-2. 基準概形以外の概形選択率 30%以上の平仮名【あ、い、お、こ、す、ち、ぬ】

ここでは、基準概形が最も多く選択されていたが、それ以外の概形選択率が30%を越えた平仮名【あ、い、お、こ、す、ち、ぬ】7字を取り上げる。約3分の1の学生が基準概形以外を選んでいるということは、その概形として捉える可能性が高くなることも予想され、詳細を見ていくこととする。

【あ】

基準概形：丸○48.9%、  
回答概形：四角□31.9%

【あ】は一画目が短いため、概形としては上部が狭くなる丸が適当である。半分ほどの学生が丸を選んでいたが、一方で約3割の学生が四角を選択している。これは一画目が長く書かれる傾向の影響を受けていると考えられる。

No.18

No.33

図7 【あ】丸の例

No.47

No.10

No.3

図8 【あ】四角の例

【い】

基準概形：横長□40.4%、  
回答概形：四角□36.2%

約4割の学生が基本概形である横長を選んでいるが、多少の差で四角の選択率が3割を超えている。【い】の字母は「以」であるため、横長の概形が基準となるが、多くの学生が高さのある【い】として概形を認識していると考えられる。

No.7

No.17

No.28

図9 【い】横長の例

No.2

No.16

No.30

図10 【い】四角の例

【お】

基準概形：四角□53.2%、  
回答概形：丸○46.8%

【お】の基準概形は四角であり半数以上が選択をしているが、丸も約半数の学生が選択をしている。丸を選択した学生の認識では、二画目が右で大きく回転する部分が丸の概形につながったと考えられる。しかし、

【お】は、「於」を字母し、その草書体から形成されており、二画目の上から下へのまっすぐな線があるため、四角を概形とするのが適当であろう。

No.1                  No.6                  No.48

図 11 【お】四角の例

No.4                  No.21                  No.27

図 12 【お】丸の例

【こ】

基準概形：縦長  $\square$  48.9%、  
回答概形：四角  $\square$  36.2%

【こ】の基準概形の縦長を約 5 割が選択しているが、3 割以上が四角を選択している。これは横長・縦長の違いはあるが、【い】と同様の傾向と言えるであろう。四角が多く選択された背景には、【こ】の一画目、二画目を長めに書くことが影響しているであろう。

No.11                  No.14                  No.36

図 13 【こ】縦長の例

No.32                  No.21                  No.24

図 14 【こ】四角の例

【す】

基準概形：逆三  $\nabla$  38.3%、  
回答概形：四角  $\square$  38.3%

【す】は基準概形である逆算と基準概形ではない四角が同じ割合となり、双方が約 4 割弱となった。【す】は一画目の横線が長く、二画目の終筆の先端がほぼ中心線上に位置する。そのため、適切な概形は逆三である。しかし、四角が多いという結果から、二画目の終筆を点として捉えるより、終わる線として把握してい

るのではないだろうか。四角や丸については多くの平仮名の概形として使用されているため、平仮名の概形としてイメージしやすいとも考えられる。逆三の概形を取る平仮名は【す】の他には【さ】【て】【や】のみとなっており、逆三は概形の図形として定着しにくい可能性もあるであろう。

No.9                  No.17                  No.41

図 15 【す】逆三の例

No.7                  No.38                  No.42

図 16 【す】四角の例

【ち】

基準概形：縦長  $\square$  42.6%、  
回答概形：四角  $\square$  36.2%

【ち】の基準概形の選択率は 4 割を越えているが、四角も三割以上となっている。【ち】は字母「知」を基本に考えた場合、四角に近いとイメージする可能性があるが、草書体から仮名への変化の過程で縦長の概形を持つのが基本となっている。しかし、学生書字の【ち】には、二画目の旋回する部分が大きく右に張り出して書かれる様子も見られ、四角と認識している学生も多いであろう。

No.38                  No.46                  No.17

図 17 【ち】縦長の例

No.3                  No.9                  No.27

図 18 【ち】四角の例

【ぬ】

基準概形：丸  $\circ$  53.2%、  
回答概形：四角  $\square$  31.9%

【ぬ】は 5 割以上が基準概形である丸を選択している。字形が似ている【め】については、約 6 割が丸を選んでおり、四角は 2 割程度に留まっている。【ぬ】は

最後に結びの部分があり、【め】とは異なり、外へ向かう形で終筆があるため、丸のイメージだけでなく、四角として捉える傾向があると考えられる。また、四角を選択している場合、一画目の上への突き出しが長めの傾向が見られる。



No.5                  No.21                  No.35

図 19 【め】丸の例



No.1                  No.4                  No.10

図 20 【め】四角の例

#### 4-3. 学生の平仮名概形把握と書字

学生の概形把握については、基準とされる概形が比較的選ばれる傾向にあると言えるであろう。しかし、【さ】【み】【る】については、基準ではない概形が多く選択されるという結果が明らかになった。特に【み】については、書字による字形を確認しても、本来の基準概形の三角ではなく、四角の概形に近いものが散見された。また、【あ、い、お、こ、す、ち、ぬ】の7字については、基準概形が選択されつつも、別の概形が多く選択される結果となり、今後も学生の概形把握の揺れが見られる可能性がある平仮名と言えるであろう。

これらの平仮名 10 字の概形選択の傾向と学生の書字による平仮名との関係から、以下の点についても推測が可能であろう。平仮名概形の基準は四角が多く設定されているが、学生は基準概形が四角以外のものであっても四角を選ぶ傾向がある。この背景には、まず、小学校での文字指導の特徴であるマス目を使った提示や書字練習の影響が考えられる。常に四角の中に文字を書くことで、各平仮名の四角以外の概形を意識する機会が少なく、マス目の四角が平仮名の概形のように捉えられている可能性が挙げられる。さらに、PCなどのIT機器での打ち込みの際の文字の影響もあると考えられる。明朝体やゴシック体を使用する機会が多いが、それらのフォントの概形は基本的に四角に当てはめられるものであるため、書字にも何らかの影響があると考えられるであろう。

#### 5. おわりに

本稿では、学生の平仮名概形の把握と書字との関係を取り上げた。将来、小学校教員になる学生にとって、小学校入門期の文字指導で有効的な概形を用いた指導が十分に実施できる能力を身に付けることは非常に重要な課題である。今回の調査では、概形の把握そのものに幅があり、今後も揺れが見られる可能性があることが明らかとなった。一方で、学生の概形把握に揺れがあるということは、各平仮名をどの概形で捉えることが自然で、児童が学びやすいのかを改めて見直す必要があることも意味されるであろう。今後は、さらにデータ数を増やし、今回の調査では十分に上げることができなかった、概形と書字の関係を詳細に調査し、明らかにしていきたい。

#### 注

- 1) 全国大学書写書道教育学会編 (2009) 『明解書写教育 (増補改訂版)』 萱原書房 p. 70
- 2) 全国大学書写書道教育学会編、同掲書、p. 70
- 3) 平成 22 年版学習指導要領国語科〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で「漢字の指導においては、学年別漢字配当表に示す漢字の字体を標準とすること。」と記述されており、小学校で指導される漢字については基準が提示されている。
- 4) 小林比出代 (2012) 「小学校書写用教科書 (第 1 学年) における平仮名での「はね」の扱いに関する一考察」『書写書道教育研究』第 27 号、p. 36
- 5) 小林、同掲論文、p. 39
- 6) 浦野俊則、津村幸恵、樋口咲子、外田久美 (2001) 「教員養成課程学生の書写力と授業改善」『書写書道研究』第 15 号、p. 83
- 7) 浦野他、同掲論文、p. 92

大学生書字による平仮名の特徴－概形を中心に－

資料 学生が選択した平仮名概形数と割合

\*各平仮名の基準概形はグレーの網掛け箇所である。

	横 長	横 長%	縦 長	縦 長%	四 角	四 角%	三 角	三 角%	丸	丸%	逆 三	逆 三%
あ	0	0	0	0	15	31.9	8	17.0	<b>23</b>	<b>48.9</b>	1	2.1
い	<b>19</b>	<b>40.4</b>	1	2.1	17	36.2	0	0	9	19.1	1	2.1
う	0	0	<b>34</b>	<b>72.3</b>	1	2.1	1	2.13	3	6.4	8	17.0
え	0	0	7	14.9	12	25.5	<b>25</b>	<b>53.2</b>	2	4.3	1	2.1
お	0	0	0	0.0	<b>25</b>	<b>53.2</b>	0	0.0	22	46.8	0	0.0
か	0	0	4	8.5	<b>36</b>	<b>76.6</b>	2	4.3	5	10.6	0	0.0
き	0	0	<b>40</b>	<b>85.1</b>	4	8.5	0	0.0	2	4.3	1	2.1
く	0	0	<b>40</b>	<b>85.1</b>	6	12.8	0	0.0	1	2.1	0	0.0
け	0	0	4	8.5	<b>34</b>	<b>72.3</b>	0	0.0	4	8.5	5	10.6
こ	0	0	<b>23</b>	<b>48.9</b>	17	36.2	0	0.0	7	14.9	0	0.0
さ	0	0	14	29.8	22	46.8	0	0.0	7	14.9	<b>4</b>	<b>8.5</b>
し	0	0	<b>45</b>	<b>95.7</b>	1	2.1	1	2.1	0	0.0	0	0.0
す	0	0	11	23.4	18	38.3	0	0.0	0	0.0	<b>18</b>	<b>38.3</b>
せ	6	12.8	0	0.0	<b>38</b>	<b>80.9</b>	1	2.1	0	0.0	2	4.3
そ	0	0.0	<b>37</b>	<b>78.7</b>	1	2.1	3	6.4	1	2.1	5	10.6
た	0	0.0	1	2.1	<b>44</b>	<b>93.6</b>	0	0.0	1	2.1	1	2.1
ち	0	0.0	<b>20</b>	<b>42.6</b>	17	36.2	0	0.0	6	12.8	4	8.5
つ	<b>32</b>	<b>68.1</b>		0.0	5	10.6	0	0.0	8	17.0	2	4.3
て	1	2.1	3	6.4	11	23.4	0	0.0	5	10.6	<b>27</b>	<b>57.4</b>
と	0	0.0	2	4.3	<b>29</b>	<b>61.7</b>	8	17.0	8	17.0	0	0.0
な	0	0.0	0	0.0	<b>38</b>	<b>80.9</b>	1	2.1	6	12.8	2	4.3
に	0	0.0	1	2.1	<b>41</b>	<b>87.2</b>	5	10.6	0	0.0	0	0.0
ぬ	7	14.9	0	0.0	15	31.9	0	0.0	<b>25</b>	<b>53.2</b>	0	0.0
ね	0	0.0	1	2.1	<b>40</b>	<b>85.1</b>	0	0.0	6	12.8	0	0.0
の	1	2.1	2	4.3	4	8.5	0	0.0	<b>40</b>	<b>85.1</b>	0	0.0
は	0	0.0	0	0.0	<b>42</b>	<b>89.4</b>	2	4.3	3	6.4	0	0.0
ひ	0	0.0	6	12.8	<b>24</b>	<b>51.1</b>	0	0.0	10	21.3	7	14.9
ふ	0	0.0	1	2.1	8	17.0	<b>28</b>	<b>59.6</b>	8	17.0	2	4.3
へ	<b>40</b>	<b>85.1</b>	0	0.0	4	8.5	3	6.4	0	0.0	0	0.0
ほ	0	0.0	1	2.1	<b>41</b>	<b>87.2</b>	1	2.1	4	8.5	0	0.0
ま	0	0.0	<b>28</b>	<b>59.6</b>	13	27.7	2	4.3	1	2.1	3	6.4
み	1	2.1	1	2.1	35	74.5	<b>5</b>	<b>10.6</b>	5	10.6	0	0.0
む	0	0.0	0	0.0	<b>36</b>	<b>76.6</b>	2	4.3	9	19.1	0	0.0
め	8	17.0	1	2.1	10	21.3	1	2.1	<b>28</b>	<b>59.6</b>	0	0.0
も	0	0.0	<b>42</b>	<b>89.4</b>	2	4.3	1	2.1	0	0.0	1	2.1
や	3	6.4	1	2.1	14	29.8	0	0.0	3	6.4	<b>26</b>	<b>55.3</b>
ゆ	0	0.0	0	0.0	11	23.4	1	2.1	<b>32</b>	<b>68.1</b>	3	6.4
よ	0	0.0	<b>24</b>	<b>51.1</b>	6	12.8	14	29.8	2	4.3		0.0
ら	0	0.0	<b>23</b>	<b>48.9</b>	9	19.1	7	14.9	6	12.8	1	2.1
り	0	0.0	<b>44</b>	<b>93.6</b>	1	2.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
る	0	0.0	<b>6</b>	<b>12.8</b>	9	19.1	10	21.3	21	44.7	0	0.0
れ	0	0.0	3	6.4	<b>41</b>	<b>87.2</b>	1	2.1	1	2.1	0	0.0
ろ	0	0.0	<b>16</b>	<b>34.0</b>	8	17.0	8	17.0	14	29.8	0	0.0
わ	0	0.0	1	2.1	<b>34</b>	<b>72.3</b>	1	2.1	10	21.3	1	2.1
を	0	0.0	<b>30</b>	<b>63.8</b>	10	21.3	4	8.5	1	2.1	1	2.1
ん	0	0.0	0	0.0	8	17.0	<b>34</b>	<b>72.3</b>	3	6.4	1	2.1